

茨城県  
教育  
研究会

# 会 報

## 第171号

<「カリキュラムマネジメント」の研究と、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善>

**特集** 「本年度の活動方針・事業計画」

平成28年7月14日  
茨城県教育研究会  
代表者 田邊 一男  
事務局 水戸市大場町933-1  
教育プラザいばらき内  
TEL 029-269-1300  
FAX 029-269-1304



自己有用感を高める授業の工夫（水戸市立第一中学校）

### 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた研究の推進と「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善



茨城県教育研究会長

田邊 一男

茨城県教育研究会は、一万六千六百名の会員からなる、全国に誇れる、本県最大の教育関係組織です。このことは、関東ブロックや全国規模の会合で、各都道府県の会長さんたちと情報交換をする中で、改めて強く感じます。

それと同時に、各都市支部・町村研究会、各研究部などが互いに連携・協力しながら、それぞれが主体的に運営され、機能しているという特徴をもつ、極めて重要な役割を担っている組織です。先輩たちが大切に育て、受け継いできてくれた本県の貴重な教育財産であると言えます。歴史と伝統を継承・発展させながら、教職員の資質・能力の向上を図り、子供たちに「生きる力」を育むことを目的に、様々な企画や取組を一緒に推進したいと思っています。

本年度の研究目標は、大きく二つ、「社会に開かれた教育課程」の研究と、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善」についての研究に取り組むことです。なお、これらの研究を進める際には、「業務の効率化」と「組織の活性化」を意識して取り組むことを基本にしたいと思っています。

具体例を挙げますと、「業務の効率化」のために、研究部の活動は、重点指定年度とそうでない年度を

隔年で設けてあります。重点指定年度でないときは、事業等を一切行わないことを原則としています。したがって、予算もほとんどつきません。一方で、重点指定年度では予算に厚みを付けて、充実した活動が展開できるようになっています。つまり、メリハリを付けた活動をするという発想です。

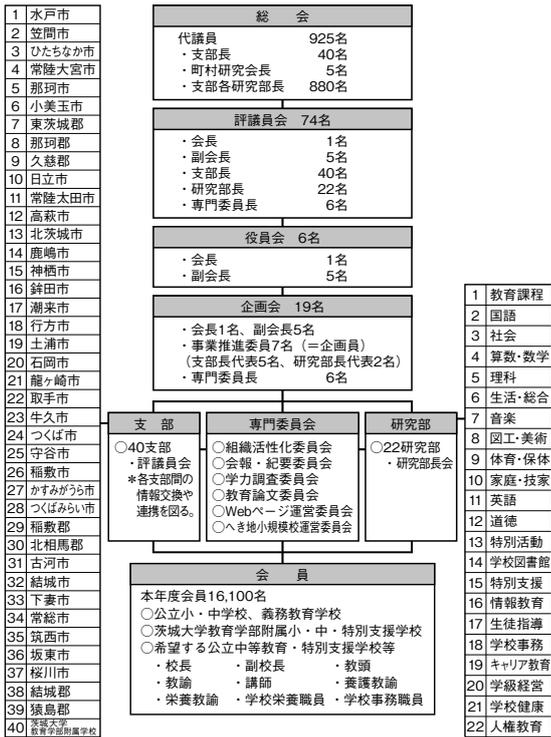
また「組織の活性化」のために、本年度から「組織活性化委員会」を専門委員会の筆頭に位置付けました。会員一人一人がどのような課題をもち、何に悩み、どのような研究や活動をしたいのかをリサーチしたり、学校長会との連携・協力を一層深めたりします。これによって、会員一人一人の声を、教育行政への要望に反映されたり、勤務状況の改善につなげたりしたいと考えています。

「教師は、子供の成長発達に責任をもつ専門家である」という強い志がもてるような、そして研鑽・研修の意欲を高められるような組織を目指して、皆さんの声を取り入れていきたいと思っています。

現在若い教職員が増えつつあります。本研究会は、会員相互の研修や活動の拠点としての役割を担うに十分な能力と機能をもっています。自分たちが組織を運営する喜びを感じながら、互いに研究と修養に励みましょ。



(図) 平成28年度茨城県教育研究会組織図



第55回 茨城県教育研究会総会並びに研修会 平成28年5月11日(水)

- ＜議 事＞ (1) 平成27年度事業並びに収支決算書の承認について (2) 役員承認について (3) 平成28年度活動方針・事業計画並びに収支予算書(案)について (4) その他
＜講 演＞ 講師 茨城大学教育学部保健体育選修 教授 茨城大学教育学部附属小学校長 勝本 真 先生 演題 教育におけるコーチングの応用 一気づき、つながり、かたち

平成二十八年度 活動方針

茨城県教育研究会は、各郡市支部・町村研究会、各研究部の研究活動や専門委員会の活動を通して、教職員の資質、能力の向上を図り、子供たちに「生きる力」を育むことを目指して、鋭意努力を重ね、着実にその成果を上げてきた。
教育を取り巻く環境が大きく変化している今日、東日本大震災等の教訓を生かし、かけがえのない自他の生命を大切にすると、生きる力である「確かな学力」「豊かな人間性」「健康な体力」をより一層育むことが強く求められている。

Ⅱ 研究の進め方
一 基本的な考え方
研究目標の達成に向け業務の効率化を進めながら、活動の改善充実を図り組織の活性化を目指す。
二 本会主催事業、研究部及び専門委員会の活動について
(一) 本部主催事業について
1. 本部主催事業について、事業推進委員(企画員・支部代表)・研究部長代表2人を中心に企画、実施する。
2. 協議・評議員会、企画員、教育振興大会、県外教育事情調査派遣事業、企画員2年次研修会、教育歴史会、研究部について
(二) 重点指定について
1. 重点指定を隔年とする。
2. 重点指定年度以外の年度は、重点指定年度以外は事業等は一切実施しない。
ただし、年度末の郡市部長会では実施できる。

① 組織活性化委員会(役員6人、支部代表5人、研究部長代表5人)教育課程研究部部長(委員長となる)次年度の活動方針案作成を主とし、次の2つの取組を実施し、本会の組織活性化に必要となる事項について検討する。また、研究部長代表5人で小委員会を構成し、活動の企画立案を行う。
ア Web機能を活用したアンケートの実施
B アンケートを通して委員の意見を収集し、活動内容等の改善充実のための検討資料とする。
イ 課題検討委員会の設置
県学校長と連携し、県学校長第2期中期教育ビジョンの少人数指導の充実について協議するとともに、未定活動の活性化に向けて必要な教育課題の検討を行う。
2 会報・紀要委員会(22研究部から各1人)
本会の活動内容、事業等の状況について委員の理解を深めるため、研究会報(年3回)と研究紀要(年1回)を発刊する。
3 学力調査委員会(問題作成委員:5教科から108人)
児童生徒の学力の実態を指導年度内に把握し、指導方法等の改善や補充指導を通して学力の定着を図るため「学力診断のためのテスト」を作成・実施する。(実施予定日)
3/31(小)6/平成29年1月11日(水)・12日(木)
中3 中2 平成28年11月8日(水)
中1 平成29年1月11日(水)・12日(木)

② 研究調査・研究成果の活用について
ア 重点指定年度研究部の調査及び刊行する。
イ Webページ掲載を基本として、刊行物の語彙
③ 研究部
○22研究部
・研究部長会
○組織活性化委員会
○会報・紀要委員会
○学力調査委員会
○教育論文委員会
○Webページ運営委員会
○へき地小規模校運営委員会
④ 職員
本年度会員16,100名
○公立小・中学校、義務教育学校
○茨城大学教育学部附属小・中・特別支援学校
○希望する公立中等教育、特別支援学校等
・校長 ・副校長 ・教諭
・教諭 ・講師 ・養護教諭
・教諭 ・栄養職員 ・学校事務職員

- ◆平成二十八年度 役員名簿
前会長 水戸市 水戸丸小
前副会長 水戸市 水戸丸小
専任委員長 水戸市 水戸丸小
企画員 水戸市 水戸丸小
監事 水戸市 水戸丸小
副会長 水戸市 水戸丸小
(一) 研究部
岩陶 榎 皆 沼 木 添 仁 近 見 鬼 門 山 中 横 鈴 日 佐 高 立 櫻 小 田 八 度
上 戸 川 田 村 田 平 納 島 武 山 口 泉 木 下 藤 田 野 村 島 邊
賀 慶 澄 一 明 良 代 裕 庄 正 壽 光 英 克 秀 和 和 健 一
子 一 元 雄 郎 弘 智 治 幸 治 司 夫 行 忠 雄 一 彦 雄 男 信 二 毅 陸 男

記念講演

# 教育におけるコーチングの応用

## ―気づき、つながり、かたち―

茨城大学教育学部保健体育選修 教授  
茨城大学教育学部附属小学校 校長

勝本 真 先生



「コーチ」という言葉が出たのは、千五百年代に「馬車」（大切な人をその人が望むところまで送り届ける）という言葉から出たといろいろなコーチングの本に書かれています。また、ボート競技の指導者がコーチと呼ばれたとか、マネジメントの話が位置づけられたとかいろいろ書かれています。

本日の資料に使ったのはこの二冊です。前半は「コーチング入門」後半は「コーチングが人を活かす」です。私もスポーツをやっていたのでコーチングを受けていました。今、書店では、スポーツの

コーチングというよりは会社経営のコーチングの本が出ています。スポーツにとつては当たり前のことを企業に向けて精錬されたものです。ただ、スポーツの中で独特な部分の特徴あるものを企業がうまく整理しているなという気がします。それをベースにスポーツにも活かしていければと思います。

この三つができればコーチングができる。いろいろな人や構成メンバーでやり方が違ってくるわけですが、そこが管理者の難しい所です。三つのスキルを具体的にいきますと、まず「傾聴（聴く・聞く）」です。二つ字があります。こちら側の「聞く」でいくと、自然と音声が入っていくイメージ。

では、「コーチング入門」本間正人・松瀬理保（日本経済新聞社）です。コーチングの考え方・三つのスキル・一つのアプローチという構成になっています。コーチングを漢字で表すと、「信」人間の可能性を信じる。子供の可能性を信じる。「認」相手の良い所を見て心に止める。良い所を見て、ポイントです。欠点はすぐに目につく。いい所を見れるようにしよう

と必ず言います。いい所を言っているから。欠点をばかりを言わない。いい所をどうやって見てあげるか。これはトレーニンングしないとかなかなかうまくいきません。「任」適材適所を任せる。この三つです。

こちらの「聴く」でいくと音声だけではなくて相手の声、言葉、そして気持ちを受け取る。そういう意味でこちらの「聴く」が使われます。やはりちゃんと聴けるかというのはトレーニンングしないと聴けません。学生にも二人でこのようなトレーニンングをやらせます。

どちらかという今、就職活動の中で自分をアピールしなさいとよく言われるので一生懸命しゃべることは慣れています。相手の話をしっかりと聞いて、的確に話ができるように練習します。茨城大学の学生は気質的にまじめでシャイで企業では不利な部分があるんです。まじめな部分があり茨城の気

質だなと思うんです。しゃべる部分ではなくどう聞いてあげるか。これは本の中で「かきくけこ」とまとめてみましょうとあります。

- ・「か」聴く環境を整えよう。
- ・「き」キャッチャーミットを用意しよう。受け止める準備です。
- ・「く」繰り返し、あいづち、うなずきを入れて受け止めていくことを示す。
- ・「け」結論を急がない。
- ・「こ」心をこめて。先生方はやっているといます。

次に質問です。いろいろな質問があります。いろいろなケースにおいて使い分けて下さいと本に書いてあります。自分の中で整理していくといいです。

- ・ Yes/Noで答える質問
- ・ Yesを引き出す「念押し、確認」の質問
- ・ Noを引き出す質問
- ・ 自由回答で意見を尋ねる質問
- ・ 自由回答で事実を尋ねる質問
- ・ 選択肢を選ぶ質問
- ・ 数字で答える質問

最後は承認です。認める「見＋とめる、観察能力、メッセージの伝達能力です。いい所を見つけてようなりリストを作ったり、書く能力を身につけるといことです。

私は、高校では殴る蹴るが当たり前の世代だったので、そのような指導を受けました。実は大学ではバレーボールはやめようと思っ

ていたのですが、筑波大に受かっていたので、また続けることになったんです。大学では、理論的に教えていただけるいい先生に恵まれました。二人の先生から両極端な指導を受け、すごく勉強になりました。

自分は殴る指導者にはならないようにと思つたのですが、大学院に入った時に、後輩の指導をしました。そしたらやはり一度だけ堪忍袋の緒が切れた状態になってしまい、一度だけ後輩を殴つたことがあります。それは、鮮明に覚えてきます。感情がコントロールできなくなるんだというのが初めてわかりました。自分もやつちやいけないと思つていたのにやつちやました。すごく指導する上で歯止めになりました。バレーボール界は叩く先生が多いので、叩き始めると伝染するんですね。空気が伝染していきます。他競技でも同じだと思えます。そこで感情のコントロールが、雰囲気で流されてしまつたところがあると難しくあります。今は絶対にやつちやいけない、当たり前なんですけど。これがどう歯止めを効かせるか。やはり各競技で困っているところがあります。指導者が認めてあげる。高校時代大変だったのであれどもいい思い出はしました。感謝はしています。

これは企業に向けてのGROW

モデルというやつです。grow というのは育てるという意味で。green と語源が同じということ。企業ではこれがベースになります。部活動もこの形に落とし込んでいくと実はそれなりにできるはずなんです。強いチームの所に行って練習して先生方が学習してそのまま、まねしてしまおうと子供たちの現状の把握なしにとってもつもない目標を立ててしまおうと、とんでもない練習を組み立ててしまおうということになるわけです。この流れを着実にやっていくと伸びていきます。

- アプローチGROWモデル
- GOALS 目標の明確化
- REALITY 現状の把握
- RESOURCE 資源の発見
- OPTIONS 選択肢の創造
- WILL 意思の確認

先輩のやっているボランティアでスポーツ教室をやっています。バレーボールの小学生からママさん、運動の苦手な教室（障害をもっている児童が多く参加している）を手伝っています。いろいろな視点で見るといい機会をもらえました。

- ① 相手のなかから答を引き出す。
- ② かたまりをほぐす（相手

- ③ 答えられる質問（まず小さくて必ず答えられる質問からはじめる）
- ④ 「なぜ」と「なに」
- ⑤ 沈黙する
- ⑥ 信頼する
- ⑦ 旅に出す（答えを教えるのではなくて自分で見つけさせる）teachingと coachingの違いです。
- ⑧ 不満を提案に変える。
- ⑨ 向こう側から見る。相手に関する質問を自分自身に問いかける。
- ⑩ 究極の質問
- ⑪ かたまりにする。具体的な行動が決まったら、今度は抽象的な言葉にまとめる。
- ⑫ 安心感と自信を与える
- ⑬ 共通理解ですね。
- ⑭ 出合い頭のひとこと（「おはよう」の一言さえ関係を作るチャンス。あいさつ運動をやっています。昨年度やってすぐいい勉強になりました。この一言があると全然違うなと思ってます）。
- ⑮ 同じ言葉を繰り返す。
- ⑯ 絶妙なあいづち
- ⑰ 気持ち話を話す
- ⑱ タイプ分け
- ⑲ 四つのタイプ
- ⑳ 人の特徴です。（①コント

- ① ローラータイプ②プロモータータイプ③アナライザータイプ④サポータータイプ
- ⑤ 強みを活かす
- ⑥ 最高のほめ言葉（肯定的フィードバック。なかなかできないのでトレーニングしました）。
- ⑦ リクエストをきく
- ⑧ 未来への夢を抱かせる
- ⑨ 目標についてたくさん話す
- ⑩ 夢を見させる
- ⑪ 価値を見つける
- ⑫ 未来を魅力的にする
- ⑬ 行動は「いい感じ」から距離を置いて見る
- ⑭ 点数化する（理想の状態を10点満点として、今の状態を採点）
- ⑮ チェックリストをつくる
- ⑯ 新しい視点を与える
- ⑰ お話をつくる（具体的なストーリーを使って相手に伝える）
- ⑱ 枕詞を使う
- ⑲ 切り口を与える
- ⑳ 広く多くのことをきく
- ㉑ なぜを伝える
- ㉒ 本当の提案をする
- ㉓ とんでもないリクエスト
- ㉔ コーチさせる（コーチングに煮詰まったら立場を入れ替えてみる）
- ㉕ 自発的な行動を促す
- ㉖ フォローする

- ㉗ 失敗する権利を与える
- ㉘ 失敗は成功の前提と考える。寛容になる。今、学生は失敗に慣れていない。無難にやろうとしている。失敗から得るものが大きいがそれをなかなか経験しない。失敗をなかなか経験しない。失敗をした学生がすぐ逃げてしまう。失敗から自分を変えるきっかけにしてみたら、失敗をプラスに変えることがなかなかできない。これを工夫している所です）。
- ㉙ クロワード・クエスチョン
- ㉚ ファイヤー（必ずやっってくださいね）とストレートにリクエストする）
- ㉛ ほめ続ける
- ㉜ 絵を差し替える（心の絵をポジティブにする）
- ㉝ エネルギを蓄えさせる
- ㉞ コーチの達人に向けて
- ㉟ モデルになる（小さな目標を自分に課し、それを達成することで自信をつける）
- ㊱ なりきる（違う誰かになりきって、違う接し方をしてみる）
- ㊲ 宝物を掘り起こす
- ㊳ メタ・コミュニケーション
- ㊴ （上から距離を置いて見たコミュニケーション）
- ㊵ 最後まで引き出す
- ㊶ エネルギを与える
- ㊷ 腕をとことん磨く（育成

方法は、相手によって柔軟に変える必要がある）

理想のコーチング像  
これは先生にも同じように応用できると思います。

さて本題です。「気づき」です。大切なことは見えない。溶け込んでいる。すぐそばにある。これは先日お話を伺った佐藤俊郎先生の言葉です。気づかないんです。それをどう気づかせるかという所が問題で、相手をよく知らないというところから距離を置いて見ることができないんです。それをゼミの学生と就職の面接練習をすると「きみは何色かな」というふう質問を受けたりするわ

理想のコーチング像 (平成27年度コーチング・イノベーション推進事業報告書)	
【グッドコーチ像】グッドプレーヤーを育成する担い手	
人物像	キーワード
スポーツを愛し、その意義と価値を自覚し、尊重し、表現できる人	人好き、スポーツが好き、スポーツと意義と価値の理解
グッドプレーヤーを育成することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることができる人	プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ
プレーヤーの自立やパフォーマンスの向上を支援するために、常に自身を振り返りながら学び続けることができる人	課題解決、自立支援、プレーヤーのニーズ充足 卓越した専門知識（スポーツ教員免許等）、内省、継続した自己学習
いかなる状況においても、窮乏かつ困難な状況に取り組みながら、プレーヤーと共に成長することができる人	空想、困難に打ち克つ力、ポジティブシンキング 真摯さ、継続性、同情、共感、対象に合わせたコーチング
プレーヤーの生涯を通じた人間関係の成長を長期的視点で支援することができる人	プレーヤーズファースト、プレーヤーのキャリア形成、人間関係の成長、中長期的視点
いかなる暴力やハラスメントも行使・容認せず、プレーヤーの権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接することができる人	暴力根絶、相互尊敬（リスバクト）、公平、公正
プレーヤーが、社会の一員であることを自覚し、規範となる態度・行動をとれるよう導くことができる人	社会の中の自己認識、社会規範、モラルの理解・遵守、暴力根絶意識のプレーヤーへの伝達
プレーヤーやプレーヤーを支援する関係者（アントラージュ）がお互いに感謝、信頼し合い、かつ協力、協働、協働できる環境を築くことができる人	社会との関係・環境構築、チームプレー、感謝、信頼、協力、協働

けです。学生は「紫です」と答える。私はその学生を知っているので、「きみは絶対紫だとは思わない。なんで紫なんだ」と確認すると、「情熱の赤と冷静な青をミックスしたら紫です」という面接用の模範解答を知っている。でも本人は全く紫ではないわけです。情報化の時代ですからいろいろなことを仕入れていくわけです。でも、実際には自分のことはよくわからないまま過ごしている。また、プライドはあります。いい所で使えばいいんですけども、マイナス要因になることもあるわけです。他の人の意見を聞かない。自分ができるんだと思いつ込んでいる節があります。

ランキングのテレビ番組が多いせいもあるかとは思いますが、自分で、自分の中でとか友達の中でランキングを付けたがる。そうすると自分の落ち着いたポジション、こんな感じかなと探っている部分があるみたいです。すると、そのような順位にこだわって、自分のよさがわからないままに固まっていつてしまう。それをどういう風に気づかせてあげるか。そこはコミュニケーションツールとして、いろいろな話、気づかせ方をしないといけないだろうと考えています。

状況を変えてみる。うまく伝わらない、もったかみ砕いて子供たちの視点で、特別支援教師の目線で見

てもらおう、そのやり方では伝わらないと的確に指摘してもらおう。

コミュニケーションのワークショップで目を閉じて運動を行うことがあります。二人組でブラインドウォーク。目を閉じると視覚情報が入ってこないのいろいろな感覚が増してきます。その他にも目を閉じて相手に合わせてキャッチボールをする、バットイングをする、縄跳びをする。当たらない、みんなそう思うんです。あるいはキャッチできないと思うんです。だけどこちら(指導者側)が成功体験をうまく伝えるように、もっているものを全てを使ってやりなさいという声を使ったり投げ方を変えたりボールを変えたりそういつた中でうまく気づいたり感じたりできた時に、キャッチできたり打ったりすることができます。目をつぶると意外と動きは安定します。びっくりした形で喜んでくれます。いかに気づきを作ってあげるかになります。

#### USA ナショナルチーム

アテネオリンピックの前年、アメリカを訪問したときの話です。日本の練習とは全く違っていました。日本人がアメリカナショナルチームの女子の指導をしたという事で知り合いのところへ勉強に行きました。日本が当たり前だと思っている練習が全然違う。男

子チームは男性の指導者で全く違う。女子でも190センチメートルぐらいでバスケットリングを握るような女性がいっぱいて、身体能力は本当に高いんです。けれど細かな動きができないので、そこを日本人監督が細やかな動きを教えるという方法でいろいろなことをやっています。日本だったら、ウォーミングアップをしたらパスをしてレシーブをして決められた練習があるんですけどもそれを全くやらない。はい、スタートとサーブをバンバン打ち始めて、それをスピードガンで計って何マイルと数字を伝え、目標の数字に達するまでやらせるんです。終わったらすぐにスパイク練習。個人のレシーブ練習なんかありません。そのぐらい徹底して苦手な所よりは自分の得意な所をがんがんと伸ばしていくというやり方です。こういうのもあるんだなと気づかされました。データに基づいた考え方です。選手を選抜していく時に「この練習の結果ですからあなたはこのことにいることはできません」というための資料にもなります。いろいろなことで情報を使うようになっていきます。それが当たり前です。練習も綿密に紙に書かれていて用意されていきます。気づきの部分が大きかったです。

日本のチームがアメリカのナショナルチームに合宿に来まし

た。日本的に声を出して練習を始めた。盛り上げていってゲームに入りませぬ。でも、外国のチームは声を出しません。無言の中で練習はやるんですが、ゲームになった途端声が出てきます。その差が大きいです。本番の集中力の差です。よく勘違いするのは、外国のチームは練習試合だと言葉悪いですけどちよっと手を抜くこともありませぬ。でもそれが本当の姿ではありません。本番になるとすごい集中力を発揮します。平気でミスをしませぬ。ミスした後に絶対にそのミスを後にひきませぬ。ポジティブに考えます。自分がミスをしたとは思ってないぐらい、びっくりするぐらい後にひきませぬ。それぐらいポジティブです。だから試合でやった時には強いのかもされませぬ。そういう所が気づきがすごく多いです。

#### 茨城県の良さ

長崎県出身の私から見た茨城が魅力度ランキング最下位とは信じられないのです。こんなに豊かな県なのですが住んでいる人にとっでは、これが当たり前の人にとっでは全くわからないだろう。こんなに坂がない、平らで道も広くて台風も来ない。茨城県に来て最初にびっくりしたのは、台風で休校になった時の風を見て、「え?こ

れで休みにするの」って思いました。長崎は台風の目が何回も来ますからあのぐらいじゃ全然休みにならないのに、それぐらいここは豊かな所なんだ。昔、長崎では水不足がたびたびありました。茨城は水不足にはなりません。水戸もすごいです。こんなに豊かな所はないんです。びっくりします。気候も素晴らしいと思います。ただ魅力度ランキングが最下位というのは、これが当たり前だと思っている人にとっては、宣伝しない、気付かないのが当たり前です。だから他県の方が茨城の宣伝をした方がいいのかと思うぐらいな感じもします。私としては本当に茨城県は素晴らしいと思っています。

#### つながり

チームの役割、同じようなタイプの人が集まるより異なる集団の方がエネルギーをもっている。チームを作る時に同質集団だと、管理はしやすいんですけどエネルギーはなかなかでこない。同じ失敗をしやすいくと別方向にみんまで行ってしまうことがある。まとめ方によっては異なる集団の方がエネルギーはもっている。これはたぶんチームも同じだと思っます。そのためにチームの中のルールを確認する必要があります。アルバイトをしている学生が多いのでマニュアルには慣れてい



ます。逆にそれしか知りません。

サッカー協会がコーチングの資格を導入して指導者の指導を統一しました。マニュアルに沿ってやりました。そうするとどうなるかというと、マニュアルというのは、最低限の基準はキープできるわけです。それから先ことはまた別問題。マニュアルに慣れると均一化した選手しかでない、ということに気付くわけです。先をどういう風に乗っていかのかが課題だといって、また新しく改革をやっています。その中のルールを決めながら共通の理解を作ってやっていかなければならない。

### 観察とコミュニケーション

改善する方法を伝える。具体的にこうしたらいいよねと言えるようにしたいんです。だめを伝える

だけではない。一生懸命になればなるほど周囲が見えなくなる。視野が狭くなってしまふ。これはプレーでも同じで、とにかくまじめな子ほど「ボールを見なさい」というとボールしか見ない。実はバスケでもバレーでもボールは必要などに見ればよいので、余裕があれば他の所を見ていけばいいのです。でも「ボールを見なさい」と言われたまじめな子は「ずーっとボールを見ます。そこがなかなか難しいです。ここも気づきでちやんと言つてあげれば大丈夫です。」

### 好き嫌いのコントロール

中学生ぐらいだと好き嫌いが激しくてチームの中でのがこりがこトにも出てしまつてぐちゃぐちゃになることが多々あります。嫌いになるとその子を見ようとしません。コートの中でいかにいい所を見てというルール作りをしていかななくてはだめということなんです。

実は今、朝日新聞で部活の特集をしています。今、四回目くらいです。中学生が言っているのは、一位は心身の成長だけでも二位は仲間作りが目的だと書いていました。大学に入って体育会系の部活に入ろうという子が本当にいなくなつてきました。部員を集めるのが、どの部活も大変になつてきています。中学生ではやっていても徐々にやらなくなつてきます。

それは中学・高校生レベルで運動は楽しいということを感じずに、あーもういいやとなつてしまつている可能性があるような気がします。私も実際チームを連れて、中学校や高校に練習試合に行つてみると、強いチームほど昔みたいな練習をやっている所に出くわすことがあります。強いチームだから子供たちもそれに理解してやっているんだと思います。ついては行つているんだと思います。しかし、トップを目指すチームが子供たちの現状を理解してちゃんとしたものを提供しているかというところ？マークが付く感じがします。

限られた時間の中で、どこをのぼるか考えていただきたい所なんです。学生に今、読ませている本があります。「私は未だかつて嫌いな人に会つたことがない」映画評論家の淀川長治の本です。

### かたち

最後に「かたち」です。「型破り」とは型があつて初めてできることであり、基本ができていない人が行つと「形無し」になる。中村勘三郎さんが言っています(中村勘三郎さんは無着成恭さんが言っていたと言つてました)。型破りは型をもっている人しかできないと思います。今は形無しが多いのではないかと思います。日本では練習という、チーム練習です。み

んなでやるものが練習。練習が終わつたら何もしないでですけど、実はアメリカのチームは、練習はみんなでやるものはすごく短い。個人練習が別メニューにあつてそれを確実に自分の責任をもつてやっているんです。報道されていない裏の時間があるんです。だから外国の人は自分の責任をもつてやっているのだから、うまくなりま

す。日本はどちらかというと、練習というとみんな練習をやつたら後は終りね、となる。その差が大きい。それも考え方。ステフィン・カリー(NBAの MVP。今シーズン 3 ポイントシュートを 402 本決めた)彼が川淵チェアマンとインタビュした時、「きみは、3 ポイントシュートをどれくらい練習するんだね」と聞いたら二から三時間ずつと 3 ポイントシュートだけの練習をやっていると答えた。チーム練習はしないけど、自分はちゃんとやっていると答えていた。中味の問題ですね。そこが実は違うということなんです。

最後に、左手の人さし指と親指でわつかを作ってください。ぎゅつと強く。そのわつかを右手の人さし指と親指で引つ張りま

ると柔らかい力が抜けた状態に戻ります。形をキープする時に、力を入れてキープするのは力を抜いてキープするのは中味が違う。野球のバットは力を入れてしっかりと握つているというが、ずつとでは作らなくて中味は緩い。微調整するのに力は必要ない。力のセンサーを入れるにはリラククスが必要で、小さい子供たちにそのような基本の体の動きを教えるのが体育の重要性です。頑張るだけでなく、うまく体を使う術を開発してあげたい。便利になつ

ている社会だからこそ、実は体を使わなくなつてしまつています。

そのためには体育でいろいろな動きを通して体を開発するために何をやるか。子供たちがスポーツを楽しんでいって、体力を落とさずに高齢まで体を動かすのが楽しいということに身に付けてもらいたい。そのための指導をどのようにしていか。的確に褒めてあげないで、最初からうまくできることはないで、いい指導者に出会えて、いろいろな言葉かけをしてもらつて自信をつけて伸びた結果、「スポーツはいいな」という感覚をもたせる。ぜひ、先生方にそのようなご指導をお願いしたいと思います。

ありがとうございます。



合唱部と大成女子高校吹奏楽部の合同練習 水戸市立五軒小学校

# 研究部の目標と計画

## 平成28年度

- ・研究目標
- ・活動内容・事業

### 重点研究部

**教育課程**  
 子どもの自主性・自立性を育む  
 社会に開かれた教育課程の編成  
 部長 木村 明弘

#### 一 活動内容

今年度、本教育研究会の活動方針にある研究目標が刷新されたことを受け、年度初めの郡市部長研修会において、研究主題の見直しを行った。「論点整理」の内容を参考にしながら、いばらき教育プランの基本テーマのキーワードを重要視し、研究主題に取り入れることで本県の独自性を表現した。各学校においては、本研究部の新たな研究主題の達成に向け、特色ある教育活動の展開を推進していただきたい。

十月の研修会では、各支部の研究推進委員が研究主題に関わる実践事例等を持ち寄り、情報共有を行いながら研修を深めていく。

#### 二 主な事業

- 郡市部長協議会研修会 5/26  
会場 教育プラザいばらき  
内容 事業計画・グループ協議
- 県教育課程研修会 10/26  
会場 教育プラザいばらき  
内容 義務教育課長の講演・グループ協議
- 事業と決算報告、研究のまとめ

**算数・数学**  
 自らに問いかけ  
 粘り強く考える力を  
 育成する指導と評価  
 部長 深見 晋

研究主題の基、算数・数学教育の在り方について追及する。

#### 一 研究協議会並びに研修会

- (一) 第一回 五月二十七日(金)  
○事業計画及びテーマの検討
- (二) 第二回 九月
- (三) 第三回 二月
- まとめ及び次年度の計画

#### 二 学習指導法研究協議会

- (一) 授業公開及び講演  
期日 六月十五日(水)  
水戸市立河和田小学校  
水戸市立赤塚中学校  
講演 宇都宮大学 教授 日野 圭子先生
- (二) 授業公開及び研究発表・協議  
期日 十一月九日(水)  
かすみがうら市立  
下稲吉東小学校  
かすみがうら市立  
千代田中学校

#### 三 五ブロック別指導法研修会

※研究主題は昨年度の継続

**理科**  
 科学する面白さを感じながら、  
 身の回りの事象とかがわつてい  
 く子どもの育成  
 部長 陶 慶一

本年度は理科教育の振興を目指し、以下の四事業を行う。

#### 一 地区別実験実技研修会

- 県南・県西地区
- 二 科学教育研修会  
県北・中央・県東地区
- 三 児童生徒科学研究作品展  
(一) 地区展  
○期日 九月二十八日  
十月九日

#### 四 茨城県発明工夫作品展

- (一) 地区展  
○期日 十月十三日  
十月二十五日
- 会場 茨城県自然博物館

#### 四 茨城県発明工夫作品展

- (一) 地区展  
科学研究作品展と同時開催
- (二) 県展  
○期日 十一月一日  
十一月七日
- 会場 茨城県総合福祉会館

**音楽**  
 共に感じ  
 共に楽しみながら  
 心をむすぶ音楽を求めて  
 部長 仁平 良治

一昨年度行われた関音研茨城大会における研究成果と課題をもとに、昨年度新しい研究主題を設定した。このテーマは昨年度までのテーマの理念を大切にしつつ、より感性や感受性や知覚力、思考力・判断力の育成を重視するとともに、学校だからこそ味わえる喜びや感動を大切にしようとするものである。この新テーマのもと県内五ブロックで研究協議会を行うとともに研究推進委員会、各専門部を中心に研究を推進する。

- 【主な事業計画】
- 一 郡市部長研修会 五月・二月  
講師 茨城県教育庁義務教育課 指導主事 川野 康子先生
- 二 研究協議会  
県内五ブロックで授業研究及び協議会を行う。
- 三 実技研修会・指導法研修会  
○歌唱指導法研修会 六月  
○器楽実技研修会 八月
- 四 茨城県芸術祭小中学校合唱合奏大会(教育庁文化課主管)  
十一月二十一日(中学校)  
十一月二十二日(小学校)
- 五 茨城県リコーダーコンテスト  
フェスティバル 二月十日
- 六 小学校管楽器合奏フェスティバル 十一月六日



**「育・育」**  
「できる、分かる、かかわる」  
を保證する体育学習

部長 永田 博

**家庭**  
・よりよい生活を目指して、課題を解決する能  
力を高める家庭教育・小学校  
生活や社会との関わりを深める技術・  
家庭科教育(中学校)

部長 磯崎 則男

**英語**  
コミュニケーションへの意欲と  
能力を高め、思いや考えを豊か  
に伝える力の育成

部長 皆川 澄雄

**道徳**  
自立した人間として、他者と共に  
よりよく生きようとする児童・生  
徒を育てる道徳教育

部長 増田 年男

**特別活動**  
集団や社会の一員として、より  
よい人間関係を築く力を育てる  
特別活動の在り方

部長 大高 美子

一 第一回郡市部長研修会

- (一) 期日 五月二十六日
- (二) 会場 教育プラザいばらき
- (三) 内容

○平成二十八年度の役員選出  
○平成二十八年度の事業計画、  
実技研修会及び授業研究会の  
地区の確認、学校体育研究協  
議会の発表担当地区の確認

○来年度の体育実技研修会及び  
授業研究会の担当地区の確認  
○研修会  
・講師  
茨城県教育庁学校教育部  
保健体育課  
指導主事 塚田 勝之先生

・講話内容  
子どもの体力向上を図るため  
の指導者の役割  
本県小中学生の体力の現状と  
授業改善の在り方

二 関フ口群馬大会視察

(中体連と共催)

一 郡市部長研修会

五月・二月

二 郡市研究推進委員研修会

六月・八月・二月

平成三十一年度関フ口中学校技  
術・家庭科研究大会、平成三十二  
年度関フ口小学校家庭科研究大会  
に向けてすべてのブロックで研究  
を推進する。

三 いばらきものづくり教育フェア

○木工チャレンジコンテスト

水戸市立第二中学校

○アイデアバッグコンクール

水戸市立第二中学校

○おべんとうコンクール

常陸太田市立峰山中学校

○いばらきロボットコンテスト

鉾田市立北小学校

○児童生徒作品コンクール

イオンモール土浦

○創造アイデアロボコン

つくば市立谷田部東中学校

四 第五十五回関フ口中学校技

術・家庭科埼玉大会参加

十月十三・十四日

提案発表「情報に関する技術」

本年度より、新たな研究テー

マにより研究を推進する。副題は  
「小・中学校の英語教育の滑らか  
な接続により、主体的な学びを育  
てる」

◎主な事業

一 郡市部長、専門委員(小学校・

中学校)合同研修会

①五月二十五日(水)

活動方針・事業計画の確認

指導講話「英語教育の波に乗

る」県教育庁義務教育課

指導主事 永尾 剛先生

②二月中旬予定

事業報告・来年度事業計画案

二 各ブロック事務局長及び研究

推進委員長合同研修会

八月月上旬予定

三 英語インタラクティブフォー

ラム各都市・各地区・県大会

・県大会 八月二十三日(火)

筑波学院大学(つくば市)

四 第六十八回高円宮杯全日本中

学校英語弁論大会茨城県大会

・期日 十月七日(金)

ホテルレイクビュー水戸

五 第四十回関東甲信地区中学校

英語教育研究協議会神奈川大会

・期日 十一月十八日(金)

川崎市総合福祉センター

六 研究紀要作成

平成二十九年年度関小道茨城大会

(会場校) ひたちなか市立市毛小  
学校) 開催に向けて、郡市部長研  
修会を計六回、研究推進委員会を  
計四回実施して、会場校と共に開  
催準備を進めていく。

一 郡市部長研修会

第一回 五月二十七日(金)

第二回 六月上旬～七月上旬

第三回 八月 第四回 九月

第五回 十二月 第六回 二月

二 研究推進委員会(研修会)

第一回 六月上旬～七月上旬

第二回 八月 第三回 十二月

第四回 二月

三 関小道東京大会(十一月十八

日(金) 町田市立町田第一小学

校)の提案発表者

発表者 佐川 有紀子教諭

(水戸市立上大野小学校)

四 関中道神奈川大会(十一月

十一日(金) 相模原市立上溝南

中学校)の提案発表者

発表者 庄司 貞夫教諭

(鉾田市立旭中学校)

この他に、「全小道夏季中央研

修講座」(東京開催)、「全中道

道徳教育推進教師育成講座」(東

京開催)へ、教諭等に参加派遣す

る。

児童生徒に身に付けさせたい力

として、「集団や社会の一員とし  
て、よりよい人間関係を築く力」  
に焦点を絞り、十一月に実施する  
研究協議会を中心に研修を進めて  
いく。「なすこと」によって学ぶ」  
という特別活動の特質を踏まえ、  
話し合い活動や実践活動を通して、  
児童生徒が主体的に活動する場を  
創り出していきたい。

一 郡市部長研修会(年三回)

五月・八月・二月(全県)

二 研究推進委員会(年四回)

七月・九月・十一月・二月

(県東ブロック中心に開催)

三 研究協議会(全県)

○期日 十一月十一日(金)

○会場 行方市立玉造小学校

○研究発表

・小学校低学年部会

・小学校立あずま北小学校

(稲敷市立あずま北小学校)

・小学校中学年部会

・小学校立横堀小学校

(那珂市立横堀小学校)

・小学校高学年部会

・小学校立中結城小学校

(八千代町立中結城小学校)

・中学校部会

(高萩市立秋山中学校)

四 研究協力校による研究(通

年)



**情報教育**  
学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身につけるためのICTの活用  
部長 大芝 静香

すべての児童生徒の情報活用能力や情報モラル等を育むとともに、学校の情報セキュリティ対策の推進と教職員のICT活用指導力の向上を目指していく。

一 郡市部長研究協議会(年二回)

○活動方針及び内容の確認

二 情報教育関連事業

○研究推進委員研修会

○情報教育研修会(十一月)

発表地区 県北・県東

○各市町村における授業研究発表会及び相互研修会の実施

三 統計教育関連事業

○統計グラフコンクール

・実施説明会 六月九日 県庁

・指導者講習会 六月十七日 県市町村会館

・各地区審査会 九月上旬

・県審査会 九月二十日 県庁

○県統計グラフコンクール入選作品展①② 十二月～二月

県立図書館、県庁他

四 放送教育関連事業

○NHK杯中学校放送コンテス

ト茨城大会 六月十八日

NHK水戸放送局

五 視聴覚教育関連事業

○県視聴覚教育振興会研修会

○合同研修会

**キャリア教育**  
社会的・職業的自立に向け  
たキャリア教育の在り方  
部長 井坂 健一

「小学校からの発達の段階に応じた体系的な基礎的・汎用的能力の育成を通して」をサブテーマとし、次に挙げる事業の実施を通して研究を深めていく。

一 第四十二回関東甲信越地区中学校進路指導研究会茨城大会

の開催

白鳥学園那珂市立瓜連小学校

を会場に、瓜連小学校・瓜連中

学校が授業を公開する。

全体会では、瓜連小学校・瓜連中学校の実践研究発表、及び記念講演として(株)フット

ボールクラブ水戸ホーリーホック代表取締役社長の沼田邦郎氏に講演していただく。

分科会では、各都県からの代表に加え、県内各地区からの代表による実践に基づいた研究協議が六分科会において行われる。

二 県版「中学生生活と進路」の編集

三 高校入試に関するアンケート調査の実施と集計

**学級経営**  
一人一人が輝く学級経営  
部長 大高 正志

本年度は、研究主題に迫るために、望ましい人間関係の中で、互いのよさを認め合い、自分のよさを発揮できる学級づくりを目指し、左記の事業を実施する。

一 第一回郡市部長研修会

○期日 五月二十五日(水)

○会場 教育プラザいばらき

○内容 本年度の組織づくり及び事業計画

二 郡市部長・研究推進委員会合同研修会

○期日 七月七日(木)

○会場 教育プラザいばらき

○講師 茨城県水戸教育事務所 学校教育課 課長 築瀬 浩幸先生

三 ブロック別研修会

○県内五ブロックによる研修会の実施(七～十月)

○担当 中央ブロック

○期日 十一月

○会場 教育プラザいばらき

○内容 ブロック代表一名発表

五 学級経営研究紀要の刊行

六 第二回郡市部長研修会

○期日 二月

○会場 教育プラザいばらき

○内容 反省と次年度の計画

**人権教育**  
人権尊重の精神の涵養を  
目指す人権教育の推進  
部長 石井 誠二

研究主題の解明を図るために、本年度は、左記の事業を実施する。

一 郡市部長会・研修会

(一)郡市部長会・研修会

○第一回 五月二十六日(木)

・研究主題・組織・研修計画

・研究協議会について

・講話

・講演 「障害者差別解消法について」

講師 大阪経法大学 一木 玲子先生

二 リーフレット「こんな学校で

ありたい」作成

(一)研究推進員

・委員長 黒田 光浩(結城南中)

・副委員長 大林 邦仁(小栗小)

・各ブロック推進委員

(二)研究推進委員会の開催

五回を予定

(三)配付予定日 第二回郡市部長

研修会

**その他の研究部**  
生きてはたらく国語の力  
をはぐくむ授業の創造  
部長 吉井 由隆

一 第一回郡市部長研修会

(一)期日 五月二十六日(木)

(二)会場 教育プラザいばらき

(三)内容 組織づくりと事業計画の検討、研修

(四)講話 「国語科教育の現状と課題」

(五)講師 県教育庁学校教育部 義務教育課 指導主事 大越 茂先生

二 国語指導者筑波研修会

(一)期日 七月二十九日(金)

(二)会場 つくば市ホテル青木屋

(三)講師 文部科学省教科調査官 水戸部 修治先生

三 県芸術祭小中学校美術展覧会

(一)期日 十一月二十五日(金)

十一月二十九日(火)

(二)会場 県民文化センター

四 関中国東大会への参加

(一)期日 十月二十日(木)

二十一日(金)

(二)会場 練馬文化センター他

五 部長・副部長会

(一)期日 二月中旬

(二)内容 研究のまとめと次年度の計画



社会

「かわり」を深め、未来を創る力をはぐくむ 社会科学習 部長 大和田 栄

一 第一回郡市部長研修会

○期日 五月二十五日(水)

○会場 教育プラザいばらき

○内容 組織づくりと事業計画の検討

○第二回 二月下旬

二 小学校副読本「わたしたちの茨城県」の改訂 八月予定

三 研究推進委員研修会 年二回を予定

四 各種研究大会への参加

○全小社名古屋大会 十月二十日(木)～二十一日(金)

提案発表 県西ブロック

※郷土教育研修会およびブロック別授業研究会は、本年度は実施いたしません。

総合生活科・総合的な学習の時間の幼小・中連携を深める授業づくり 地域教材の効果的な活用を通して 部長 内田 和子

一 郡市部長研修会 五月・二月 役員研修会

二 五月・七月・一月 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会埼玉大会(越谷市)への参加

○期日 十月二十八日(金)

○提案者 土浦市立藤沢小・斗利出小・山の荘小

四 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会青森大会への参加

○期日 十月四日(金・五日)(土) ○提案者 古河市立下辺見小学校 教諭 伊藤 裕子先生

五 その他 ※平成三十一年度茨城大会開催に向けての準備を進める。

工作美術 感性を豊かにし、創造する力を育む、図画工作・美術教育の在り方 部長 堀江 俊夫

一 郡市部長会・研修会

○五月二十七日 県近代美術館

二 夏季実技研修会

○期日 八月十日 (予定)

○会場 茨城大学教育学部附属小学校

三 第一回研究調査委員会

○期日 八月十日

○会場 茨城大学教育学部附属小学校

四 第五十六回関ブロック造形教育研究 究神奈川大会への参加

○期日 十一月十七・十八日

○分科会担当 県南・中央地区

五 県芸術祭小中学校美術展覧会

○期間 十一月二十五日

○会場 県民文化センター

六 第五〇回県図工・美術教育研究 究県北大準備年(県北地区)

七 部報第四十六号のWeb掲載

二月

本校は、研究主題に迫るために、左記の事業を実施する。

校図書館 確かな学力と豊かな人間性を たくむ学校図書館 学習センター・情報センター 機能のさらなる充実を目指して 部長 添田 智

本年度は、研究主題に迫るために、左記の事業を実施する。

一 郡市部長研修会

○第一回(五月二十四日)

○第二回(二月)

○会場 教育プラザいばらき

二 第五十四回茨城県小・中学校 読書感想文コンクールの実施 (九月・十月)

三 読書感想文集第四十七号の編集 (十一月・一月)

四 第六十二回青少年読書感想文 全国コンクールへの参加

五 第三十回茨城県読書感想文コンクールの実施(一月)

六 「いばらき読書フェスティバル二〇一六」の後援

○期日 十一月六日

○会場 県立図書館

特別支援 一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方を目指した教育活動の推進 部長 谷田部 孝子

校内における「合理的配慮」の実施を踏まえ、教員の専門性の向上や関係機関との連携を目指した教育活動を推進していく。

一 知的障害教育部会

(一)各ブロックでの担当者研修会

二 自閉症・情緒障害教育部会

(一)各ブロックでの担当者研修会

三 難聴・言語障害教育部会

(一)県及び各ブロックでの担当者研修会

(二)研究集録の発行

四 広報啓発部会

(一)「いばら四十九号」の発行

(二)ナイスハートふれあいフェスティバル 十二月九日～十二日

五 研究調査部会

(一)中学校卒業生進路実態調査

携帯電話・インターネット 利用に関する課題への対応

校長 日下部 秀雄

生徒指導

研究テーマは昨年度同様である。ネットから始まる問題行動が増加している現状を踏まえ、各地区、各校において研究に取り組む。昨年度十一月に行った県研修会の発表資料は、教育プラザHPの県教育研究会から閲覧できるので参考にしてほしい。

一 第一回郡市部長研修会

○期日 五月十九日(木)

○会場 教育プラザいばらき

○内容 教育プラザいばらき

・組織づくり・事業計画

二 第二回郡市部長研修会

○期日 一月二十七日(金)

○場所 教育プラザいばらき

○内容 反省と次年度の準備

学校事務 活力ある学校づくりを支える学校事務の在り方 部長 和田 雅彦

研究主題に迫るために、本年度は左記の事業を実施する。

一 郡市部長会・研修会

(一)郡市部長研修会

○第一回 六月二日(木)

・研究主題・組織・研修計画

・研究推進委員会について

二 郡市部長会並びに研修会 二月

(一)本年度の反省とまとめ

(二)次年度の事業計画と立案

○第二回 二月(メール配信)

・ブロック別研修報告

(二)各郡市部研修会

二 茨城県学校事務研究協議会

※今年度は開催しない。

(次年度県北ブロック)

三 「学校事務研究部のあゆみ」作成

(一)調査票の配信

七月二十一日(木)

(二)調査票の提出

十二月二十二日(木)

学校健康 主体的に生きるための学校健康教育の在り方 部長 雨海 祐彦

今年度も、「主体的に生きるための学校健康教育の在り方」のテーマのもと、学校健康教育の充実に努めていく。

重点指定年度以外に当たると、次年度の研究協議会実施の地区は準備を進めていく。各市町村の教育研究会や先進学校との連携により研究活動を推進していく。

本年度は次の二事業を実施する。

一 郡市部長会並びに研修会 五月

(一)役員選出

(二)昨年度の事業報告と決算報告

(三)本年度の事業計画・予算について

(四)本年度以降の事業について

二 郡市部長会並びに研修会 二月

(一)本年度の反省とまとめ

(二)次年度の事業計画と立案



理科室のおじさんに質問 (1 年学校探検) 日立市立櫛形小学校

# 支部だより

・研究目標  
・事業計画

## 水戸市

上田 壽行

水戸市教育会は、本年度、国田義務教育学校を加え、会員数千三百六十三名で組織され、二十四研究部と三事業部で構成される。「一人一人の確かな学びと夢を実現する水戸スタイルの教育」を推進し、幼児児童生徒に、未来を主体的に切り拓く力を育むことを目指す。

### 本年度の主な事業 (三事業部)

- 一 二十四研究部による研究推進
- 二 教育研究発表大会の実施
- 三 市総合教育研究所との共催研修・プロジェクト研修の推進
- 四 教育講演会の実施
- 五 研修視察・県外派遣の実施
- 六 論文募集による研究奨励
- 七 本教育会「会報」の発行
- 八 研究紀要(実践収録)の発行

## 笠間市

青木 勝照

本研究会は、小中学校二十三校、会員三百七十五名で組織されている。全会員の主体的で協働的な研究活動の推進により、研究目標の具現化に努めている。

### 本年度の研究目標

学習指導要領が目指す姿を踏まえ、社会に開かれた教育課程の実現に向けた研究を推進するとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に努める。

### 本年度の主な事業

- 一 夏季教育研究発表会(八部会)
- 二 教育実践発表会(全会員参加)
- 三 会報・研究紀要の発行
- 四 児童生徒の教育振興

### 〇小学校陸上競技大会

### 〇小中学校音楽のつどい等

## ひたちなか市

石川 富子

本市教育研究会は、小中学校二十九校、会員数七百九十九名で組織されている。学校教育振興のためのスローガン「夢・感動・笑顔」が広がる教育のまち「ひたちなか」の実現を目指して、自主的・実践的な研究活動に取り組んでいる。

### 本年度の主な事業

- 一 夏季研究協議会(十一部会)
- 二 教育講演会(三年次)
- 三 授業研究・実技研修等の開催
- 四 小中連携事業の推進
- 五 市教育振興大会の開催(共催)
- 六 指導と評価の計画の作成
- 七 児童生徒の教育の振興

### 〇インタラクティブフォーラム

### 〇小学校陸上記録会

### 〇小中学校音楽会 等

## 常陸大宮市

海老根 裕

本市教育研究会は、小学校十一校、中学校五校、会員数二百五十九名で組織されている。「郷育立市」の考えのもと、郷土愛に富み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな

体」の調和のとれた児童生徒の育成を目指し、自主的・実践的な活動に取り組んでいる。

### 本年度の主な事業

- 一 九研究部の重点化と充実
- 二 教育研究会の開催
- 三 教育講演会の開催
- 四 教育研究会指定校公開授業
- 五 会報誌「清流」の発行
- 六 児童生徒の教育の振興

### 〇小学校陸上競技会

### 〇小中学校音楽会

### 〇ミュージックフェスティバル

## 那珂市

川又 暢

本研究会は、小学校九校、中学校五校、会員数三百三名で組織され、二十二研究部、三研修部と一専門委員会が構成されている。各研究部では、那珂市小中一貫教育が目指す「義務教育九年間を見通し、学園内の教職員が連携し合っ

て、個性と創造性に富み、心身共に健康で人間性豊かな児童生徒を育成する教育」の研究とその実践を会員一人一人が主体的に取り組んでいる。

### 本年度の主な事業

- 一 市教育研究会(八月四日)
- 二 市指定研究発表会(十一月四日)
- 三 教育広報誌「向日葵」の発行
- 四 児童生徒の教育振興

### 〇市小学校陸上記録会

### 〇市小中学校音楽会

## 小美玉市

廣戸 隆

本研究会は、幼稚園六園、小学校十二校、中学校四校、会員三百十四名で組織され、二十三の研究部と三つの専門部で構成されている。各部会は「確かな学力とたくましい体を持ち郷土を愛する心豊かな人づくりを目指し、実践的な研究活動に取り組んでいる。

### 本年度の主な事業

- 一 研究発表会(八月四日)
- 二 教育講演会(八月二十四日)
- 三 研究指定校の発表
- 四 会報・研究紀要の発行
- 五 教育論文の募集
- 六 児童・生徒の教育振興

### 〇小学校陸上記録会

### 〇児童・生徒音楽のつどい等

## 東茨城郡

古市 敏夫

本研究会は、茨城町・大洗町・城里町の小中学校十七校、会員三百六十九名で構成され、二十二の研究部と二専門委員会が研究目標「一 学ぶ意欲を向上させる」、「二 思いやりの心・感謝の心・耐える心を育む」、「三 創意ある教育活動を展開する」の実現を目指して活動に取り組んでいる。

### 主な事業計画

- 一 郡教育研究会総会

- 二 役員会 (年三回)
- 三 評議員会 (年四回)
- 四 東茨城郡方式による重点研究部の指定 (六研究部)

五 郡教育研究発表大会

八月五日 (大洗町会場)

推進委員会 (年三回)

六 各町指定による研究発表会

**那珂郡**

綿引 正浩

本研究会は、小学校六校、中学校二校、会員数二百二十一名で組織されている。意欲的な研修に努めるとともに、実践的研究を積み重ねながら、教師力の向上を目指して研究活動を推進している。

**主な事業計画**

- 一 各研究部による研究実践
- 二 教育研究集会 (八月四日)
- 三 教養部研修会 (八月四日)
- 四 現職研修会 (八月十二日)
- 五 陸上記録会 (九月二十九日)
- 六 学校音楽祭 (十月二十八日)
- 七 教育論文募集
- 八 研究指定校発表会 (十一月九日)

東海村立中丸小学校

九 教育振興大会 (二月十七日)

**久慈郡**

清水 雅人

本研究会は小学校七校、中学校四校、会員数百五十六名で組織されている。二十二の研究部と三つの専門部を設け、自主的・実践的

な研究活動を推進し、「個性と生きがいを育む教育・心のふれあう教育」の具現化に努めている。

**主な事業計画**

- 一 各研究部計画による研究実践
- 二 教育研究集会 (八月十八日)
- 三 研究指定校の委嘱と発表
- 四 初任者研修会の運営
- 五 「教育大子」の発行 (年二回)
- 六 教育活動推進のための事業

○小・中学校陸上競技大会

○小・中学校音楽会

○教育美術展○郷土研究発表会

○統計グラフコンクール等

**日立市**

作間 忍

本研究会は、小学校二十五校、中学校十六校 (県立中含む)、特別支援学校一校、総会員数千三百二十一名で組織され、二十二研究部と三特別委員会が構成されている。

「一人一人が夢や希望をもち、生き抜く力を育む教育の研究と実践」を研究目標として、実践研究・各種事業に取り組んでいる。

**主な事業計画**

- 一 各研究部計画による研究実践
- 二 専門部員研修会 (五月六日)
- 三 教育振興大会 (八月三日)
- 四 教育研究会総合発表会 (八月十八日)
- 五 先進校等視察 (二学期中)
- 六 教育論文募集 (十一月上旬)
- 七 小中学校音楽会 (十一月中旬)

**常陸太田市**

寺門 正夫

本教育会は、小学校十三校、中学校七校、会員三百三十四名で構成され、子供たち一人一人の夢を育む教育を展開し、信頼される魅力ある学校づくりを目指して実践研究を進めている。

**主な事業計画**

- 一 各研究部計画による研究実践 (十三研究部を重点指定)
- 二 教育会報発行 (七月)
- 三 教育研究発表会 (八月二十三日)
- 四 教育論文募集
- 五 教育振興大会 (十一月、共催)
- 六 児童生徒への教育奨励事業

○科学研究・発明工夫作品展

○小・中学校音楽会

○小学校陸上記録会

○手をつなぐ子らの作品展 等

**高萩市**

山崎 慎哉

本教育研究会は、小学校五校、中学校四校、会員数百七十一名で組織され、二十二の研究部と一つの特別委員会が構成されている。

「新学習指導要領が目指す姿を踏まえ、各学校の課題を明確にし、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善の研究に努める。」を研究目標として、感性と郷土性を併せもつ「萩っ子」の育成を目指し、各種事業に取り組んでいる。

本年度の主な事業計画

- 一 各研究部計画による研究実践
- 二 高萩市・北茨城市教育研究発表会 (八月十七日)
- 三 教育振興大会 (十一月)
- 四 教育論文募集と研究紀要刊行
- 五 市教育委員会との共催事業

**北茨城市**

細谷 昭彦

本研究会は、小学校十一校、中学校五校、会員数二百八十名で組織され、二十二の研究部と六つの専門委員会が構成されている。「各学校の課題を明確にし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開するための研究に努める」を研究目標とし、全会員が自主的実践的な研究活動を推進している。

**本年度の主な事業**

- 一 高萩市・北茨城市教育研究発表会 (八月十七日)
- 二 教育実践事例の募集
- 三 「みんなで教育を考えるつどい」の開催 (十一月十八日)
- 四 児童生徒への教育振興

○小・中学校音楽会

○小・中学校美術・書道作品展

○小学校陸上記録会

○音楽発表会

○児童生徒作品展

○文集「神栖の子」の発行等

**鹿嶋市**

鬼沢 庄司

本研究会は、小学校十二校、中学校五校、会員数三百七十四名、二十四研究部と八教養部で組織され、「地域とともにすすめる特色ある学校づくり」をテーマとし、生きる力を育み、時代の要請に応えることのできる鹿嶋っ子の育成を目指し取り組んでいる。

**主な事業計画**

- 一 研究部・教養部の研修会
- 二 教育研究発表会・教育講演会
- 三 授業改善プロジェクト事業の推進
- 四 児童生徒への教育振興

○小中学校陸上記録会

○音楽発表会・児童生徒作品展

○インタラクティブフォーラム

○特別支援学級校外学習

**神栖市**

須田 匡信

本会は、小学校十五校、中学校八校、会員数五百八十名で組織され、二十三の研究部と七つの教養部、二つの特別委員会が構成され、教職員としての資質の向上と学校教育の振興及び社会文化の発展に貢献することを目的としている。

**本年度の主な事業**

- 一 研究部・教養部の研修会
- 二 教育研究発表会・教育講演会
- 三 市統一テスト
- 四 市教育会指定研究発表会
- 五 児童生徒への教育振興

○小学校陸上記録会

○科学研究作品展

○音楽発表会

○児童生徒作品展

○文集「神栖の子」の発行等

銚田市

荒井 保雄

本市教育会は、第一回の統廃合が行われ、幼稚園が四園、小学校十六校、中学校四校になる。会員数は、三百四十七名で構成されている。

本市の教育目標「夢と希望をもち、未来を拓く心豊かな人づくり」の実現のために各研究部が実践的な研究活動に取り組んでいる。

本年度の主な事業計画

- 一 各研究部による研修会
二 各教養部研修会
三 講習会(五つの研究部)
四 授業公開(二園・十校)
五 教育研究発表会(八月四日)
六 児童生徒への教育振興
小学校陸上記録会・科学研究作品展・児童生徒音楽会・文集「ほこた」発刊・インタラクティブフォーラム・ものつくり作品展等

潮来市

石井 澄子

本会は、幼稚園二園、小学校六校、中学校四校の会員数二百七名からなり、六つの教養部と二十二の研究部で構成されている。

県教育研究会の活動方針を受け、研究の充実に努め、教職員の資質・能力の向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指している。

本年度の主な事業

- 一 各教養部・研究部研修会
二 小学校親善陸上記録会
三 特別支援学級合同校外学習
四 科学研究・発明工夫作品展
五 児童生徒音楽会
六 児童生徒作品展
七 学習指導研究発表会(指定校)
八 人権教育講演会、人権作品展
九 幼稚園児高齢者ふれあい事業

行方市

薄井 則夫

本教育会は、行方市学校等適正配置計画が完了し、幼稚園三園、小学校四校、中学校三校、会員数千七百四名で組織されている。

教職員としての自覚と責任をもち、生き生きと意欲をもって活動する子供の育成と家庭や地域の教育力を生かした開かれた学校づくりに努めている。

本年度の主な事業

- 一 各研究部研修会
二 各教養部研修会
三 第六十一回教育研究発表会
・期日 八月三日(水)
・会場 行方市立麻生中学校
四 市教育会指定研究発表会
・行方市立玉造小学校
・行方市立麻生中学校

土浦市

齋藤 浩一

本市教育研究会は、幼稚園五園、小学校十九校、中学校八校の

会員六百九十六名で組織されている。「社会の変化に主体的に対応し心豊かでたくましく生きる資質や能力の育成を図る」を研究主題とし、小中一貫教育を図りながら、二十三研究部で活動している。

本年度の主な事業

- 一 各研究部主任会
二 全員研究協議会(八月四日)
三 小中学校地区音楽会
四 小中一貫カリキュラム研修会
五 児童生徒作品展、インタラクティブフォーラム
六 教育総会の開催(優秀研究論文の発表等)

石岡市

児島 裕治

本会は、幼稚園一園、小学校十九校、中学校六校、給食センターで構成され、会員数は四百五十五名である。二十二の研究部で「社会に開かれた教育課程の実現」に向けた実践的な研究を通して、教職員の資質・能力の向上と児童生徒の「生きる力」の育成を目指している。

本年度の主な事業

- 一 各研究部研修会
二 児童生徒作品展・発表会等
三 研究発表会(八月五日)
十一分科会 十七人発表
四 研究指定校発表会
高浜小(十月)
小桜小・八郷中・北小(十一月)

五 実技研修会
六 教育論文発表会(一月十五日)

龍ヶ崎市

藤ヶ崎 敦

本市教育研究会は、小学校十二校、中学校六校の会員三百九十九名で構成されている。本会の研究目標「新しい学習指導要領の目指す姿を踏まえ、グローバル化社会の中で活躍できる児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、教職員の指導力の向上と市教育の振興」の実現のために二十二研究部と三専門委員会が活動している。

本年度の主な事業

- 一 教育研究発表会の開催
二 教育研究論文の募集
三 研究紀要の発行
四 教育講演会の開催
五 児童生徒文詩集「わ」の発行
六 小中学校音楽祭の開催
七 市文化祭への作品参加等

取手市

海老澤 勤

本市教育研究会は、一幼稚園、十四小学校、六中学校の四百六十五名の会員から構成されている。研究テーマを「知性に富み心身ともに健全な児童生徒の育成」とし、二十二の研究部と七つの事業部で全会員が自主的・実践的な研究に取り組んでいる。

本年度の主な事業

- 一 各研究部研修会(年三回)

二 児童・生徒の発表会等の事業

- 小学校陸上記録会
○インタラクティブフォーラム
○小中学校音楽会
○児童生徒作品展
○特別支援合同学習会 等
三 一般研修視察
四 会報「とりで」の発行

牛久市

岩田 博

牛久市教育研究会は、幼小中十六校、会員四百六名、二十三の研究部で構成されている。教職員の資質を高め、学校の教育力の向上を図り、牛久の教育の新たな創造に向け取り組んでいる。

研究の目標

- 一 「主体的・協働的な学び」を通して、心豊かでたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。
二 幼小中の連携を図り、一人一人を生かす創意ある教育活動の推進を図る。

本年度の主な事業

- 一 市教育研究会指定の「学び合い」の校内授業研修会の開催
二 各中学校区毎の研修会の開催
三 「うしくの教育」の発行

つくば市

矢口 和子

本市教育研究会は、十七幼稚園、三十六小学校、十四中学校、義務教育学校、並木中等教育学

校、会員千三百二十四名で組織され、二十四研究部で研究に取り組んでいる。「未来をひらく、やさしく、しなやかでたくましい幼児・児童・生徒の育成」を目指し、着実な研究活動を推進し、学校力と教師力の向上を図っていく。

**本年度の主な事業**

- 一 教育研究発表会・講演会の開催
  - 二 教育研究論文募集・発表会
  - 三 研究指定幼稚園発表会
  - 四 幼児・児童・生徒の発表会の実施
- ・つくば市学園合唱フォーラム  
・英語インタラクティブフォーラム等

### 守谷市

椎名 和良

本市研究会は小中十三校、会員数三百四十四名で組織している。

#### 一 研究目標

「新しい時代に対応し、たくましく生きる力を育む教育実践の在り方」(保幼小中高一貫教育の更なる発展をめざして)

#### 二 事業計画

- (一)各研究部の研修の充実
- 授業研究重点研究部
  - 国語・理科・英語等
- (二)主権事業の継続実施
- 基礎学力調査テスト
  - (小一・二年生対象・国算)
- 小中学校音楽会
- 特別支援教育「つばさ展」
- (三)市指定発表校

### 稲敷市

篠原 輝一

本研究会は幼稚園・認定こども園五園、小学校十一校、中学校四校で組織し、「生きる力のある園児・児童・生徒の育成」をテーマに研究・実践に取り組んでいる。

**本年度の主な事業**

- 一 重点研究部、特別研究部における実践研究
- 二 幼小中連携事業の推進
- 三 教育講演会・全員研修会の開催
- 四 研究委嘱及び研究委嘱校発表会 (江戸崎小・江戸崎中)
- 五 教育論文の奨励及び論文表彰式
- 六 園児・児童・生徒の学習活動奨励事業
- 七 研究紀要の発行

### かすみがうら市

宇津野英広

本研究会は、今年度から小学校の統廃合により小中学校十六校から五校減少し、十一校で組織されている。各研究部の研究活動や各種活動を通して、教職員の資質の向上を図り、児童生徒に生きる力を育むことを目指している。

**本年度の主な事業**

- 一 重点研究部による研修
- 二 教育研究発表会
- 三 教育に関する講演会
- 四 教育論文募集と論文発表会
- 五 児童生徒に関わる活動

○小学校陸上競技記録会や音楽発表会の実施

○児童生徒参加の各種事業と文集の発行

六 研究集録の発行

### ひばり町

飯田 文夫

本市教育研究会は、小学校十一校、中学校四校、幼稚園三園、会員三百二十六名で組織し、「確かな学力と健やかな心身をもち、夢に向かって挑戦する児童・生徒の育成」をテーマに実践研究に取り組んでいる。

**本年度の主な事業**

- 一 各研究部の研究推進
- 二 小中一貫教育の実践研究
- 三 夏季一斉研修会(講演会)
- 四 研究委嘱校発表会
- 五 福岡小学校 ○十和小学校

### 稲敷郡

赤上 富彦

本研究会は、「個性と創造性に富み、豊かな心をもち、たくましく生きる児童・生徒の育成」を研究テーマに、二十校で実践研究を進めている。

**本年度の主な事業**

- 理科作品展
- 手をつなぐ子らの作品展
- 児童生徒文集の作成等
- 「とね研だより」の発行
- 二 児童生徒を対象とした事業
- 小学校陸上記録会
- 音楽を楽しむ会
- 児童生徒の各種作品展
- 各種コンクール審査会
- 特別支援教育「つばさ展」

### 北相馬郡

仲田 義弘

利根町教育研究会は、小学校三校、中学校一校、会員数八十名で組織され、「心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成をめざして」を研究主題として実践研究を進めている。

**本年度の主な事業**

- 一 教育研究に関する事業
- 各研究部による研修
- 夏季一斉研修会
- 研究発表会
- 「とね研だより」の発行
- 二 児童生徒を対象とした事業
- 小学校陸上記録会
- 音楽を楽しむ会
- 児童生徒の各種作品展
- 各種コンクール審査会
- 特別支援教育「つばさ展」

### 古河市

和久 俊明

本市教育研究会は、市内小中

校三十二校と古河中等教育学校で構成され、「古河市の教育」の振興と児童生徒の健全な育成及び教職員の指導力の向上を目指して次のような取組を行っている。

**本年度の主な事業**

- 一 各教育研究部研修会
- 二 研究指定校による授業研究会 (古河一小・古河二小・小堤小・上大野小・駒込小・三和中)
- 三 文化的・体育的行事の開催
- 小学校陸上記録会
- 小中学校音楽会
- インタラクティブフォーラム
- 小中学校合同校外学習
- 各種作品展
- 四 研究紀要の発行

### 結城市

塚越 敏典

結城市教育研究会は、小学校九校、中学校三校および十五の幼稚園保育所(園)の職員が「豊かな心をもち、たくましく生きる子供の育成を図る」を研究目標にして実践を進めている。

**本年度の主な事業**

- 一 本年度の主な事業
- 教科・領域研究部の実践研究
- 市内小学校陸上記録会
- 統計グラフコンクール
- 夏季研修講座
- 科学研究作品展・発明工夫展
- 児童生徒総合作品展
- 手をつなぐ子らの作品展
- 小中学校音楽会

- 人権作品集の刊行等
- 二 研究指定校の授業公開と発表

○絹川小学校・結城中学校

**下妻市** 齊藤 修一

本市教育研究会は、小学校九校、中学校三校、幼稚園六園、会員数二百八十七名で組織されている。子供たちの夢や希望を育む教育を展開するため、自主的・実践的な研究を推進している。

- 一 本年度の主な事業
- (一)各研究部活動の推進
- (二)先進校への派遣研修の実施
- (三)研修会・講習会の開催
- (四)研究紀要の刊行
- (五)小中学校音楽会の実施
- (六)小学校陸上記録会の実施
- (七)教育論文の募集
- (八)児童生徒作品展の開催

- 二 指定・希望研究の推進
- 下妻小 ○高道祖小
- 総上小 ○宗道小 ○大形小

**常総市** 近納 代幸

本市教育研究会は、小学校十四校、中学校五校、会員数三百九十二名で組織されている。災害復興元年にあたる今年度は、子供たちの夢や希望を育むための特色ある教育課程の実践研究と併せて、家庭・地域と連携した防災教育の充実に努める。

一 主な事業

- (一)各研究部の研修と授業研究
- (二)教育論文の研修と募集・審査
- (三)教育講演会の開催
- (四)小中学校音楽会の開催
- (五)児童生徒作品展の開催
- (六)研究紀要等の刊行

二 本年度の学校独自研究発表校

大花羽小・石下小・菅原小の三校が研究発表を行う。

**筑西市** 須藤 和彦

一 本年度の目標

本市教育研究会は、いばらき教育プラン・学習指導要領の趣旨や内容に基づいた教育活動を推進し、学力の向上に向けて研究実践に努めるとともに、生徒指導を総合的に推進し、主体的・協働的に取り組むなど、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成に努める。

- 二 主な事業
- (一)各教科・領域の実践研究
- (二)小中一貫教育の推進
- (三)指定研究発表
- 河間小 ○村田小
- 川島小 ○下館小

**坂東市** 野口美千代

本研究会は、幼稚園、小学校十三校、中学校四校、会員数三百四十六名で組織され、創意ある実践研究に取り組んでいる。

- 一 研究の重点
- (一)創意ある教育課程の実践と評価・改善
- (二)確かな学力の向上
- (三)心の教育の充実
- (四)教師としての確かな力量と総合的な人間力の向上
- 二 主な事業計画
- (一)各研究部研修会の開催
- (二)市指定研究発表会の開催
- 長須小 ○東中
- (三)国立教育政策研究所委嘱「魅力ある学校づくり調査研究事業」との連携

**桜川市** 榎戸 元

本教育研究会は、小学校十一校、中学校五校、会員数二百七十八名で組織されている。新学習指導要領の方針等を可能な限り先取りして、会員総意の下、主体的・協働的な研究活動を推進している。

- 一 主な事業
- (一)各校、各研究部の研究推進
- (二)学校運営研修会の実施
- (三)小中連携協議会の開催
- (四)教育論文の募集・審査・表彰
- (五)学力診断のためのテスト、全国学力・学習状況調査結果の分析及び対策
- (六)科学研究作品展、音楽会
- (七)教育論文集・研究紀要刊行
- 二 指定授業研究会の開催
- 谷貝小 ○紫尾小 ○桜川中

**結城郡** 赤松 治

本教育研究会は、児童生徒一人一人が輝く、活力ある学校づくりに取り組んでいる。

- 一 研究目標
- 自ら学び、豊かな心をもつ子どもの育成
- 二 事業計画
- (一)研究指定校発表会の実施
- 中結城小学校
- (二)各種研修会の実施
- (三)研究紀要の発行
- (四)教育論文の募集・審査
- (五)県学力診断のためのテスト、全国学力学習状況調査の分析検討・対策
- (六)各種作品展・小学校陸上記録会・音楽会等の実施
- (七)実践報告会の開催

**猿島郡** 逆井 昇

本教育研究会は、境町、五霞町の小学校七校、中学校三校、会員二百六人で組織されている。児童生徒の学習意欲の向上を図るため、全会員が英知と情熱を結集して研究に取り組んでいる。

- 一 研究の重点
- 前年度までの成果や課題を検証し、その改善を図る。
- 二 主な事業
- (一)各研究部と各校の実践研修
- (二)小学校陸上記録会

**茨大附属** 勝本 真

附属幼稚園を含めた四附属学校園では、四附属間や大学と連携して理論的・教育実践研究を推進し、その成果を自らの教育活動に活かすと共に研究会を開催している。

- 附属小学校
- テーマ 未来をつくる子どもを育てる(一年次)
- 教育研究発表会 六月三日(金)
- 公開授業研究会 二月二十八日(土)
- 附属中学校
- ミニ公開授業研究会(道徳)
- 七月七日(木)

テーマ 二十一世紀を生きるための「教養」を高める学びの創造(三年次)
- 公開授業研究会 十一月十九日(土)
- 特別支援学校
- テーマ アクティブ・ラーニング
- グ時代の授業づくり
- 公開研究会

平成二十九年二月十八日(土)



学び合い (グループワーク) 鹿嶋市立波野小学校

# 視 点

一 「カリキュラムマネジメント」の研究と、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善 一

自ら考え、思いを進んで表現する児童の育成

笠間市立若間第一小学校  
校長 柏 容子

本校では、これまで国語科の研修を基盤に単元を貫く言語活動を積極的に取り入れ、学力の定着を図ってきた。今年度はさらに、課題解決的な言語活動を充実することにより、表現力の向上と豊かな人間関係の構築を目指している。そのためには、主体的・協働的な学びの展開と多面的な評価による授業改善が有効であると考え、次のような実践を進めている。

一 丁寧な課題解決学習の取組による授業づくり

○学習意欲を喚起する工夫

- ・ 児童の知的好奇心を高める課題発見と設定の支援
- ・ 見通しと振り返りを重視した学習計画の提示
- 自主的に児童が思考・判断・表現し合う場の設定
- ・ 多様な考えを引き出す発問
- ・ 一人で思考する場面とペア、グループなどで学びを深める言語活動

二 教育活動全体で児童を育てるという組織的改善

○ねらいを明確にした指導計画と到達目標の共有

○評価結果の分析と指導方法の見直し

・ 学習内容の定着度評価

・ 児童、教師、参観者の評価を生かす課題解決策の検討

多様な可能性を伸ばすためには、学習のプロセスが大切である。活動時間、内容をマネジメントして児童一人一人の活躍の場を増やしていく。心豊かに児童が進んで自己表現できる授業を推進したい。

自分の考えを適切に表現できる児童の育成

東海村立中丸小学校  
校長 足達 幸子

本校は、二十七年から東海村教育委員会並びに東海村教育研究会から二年間の研究指定を受け、研究テーマを「自分の考えを適切に表現できる児童の育成」国語科における「書くこと」「話すこと」の指導を通して」として校内研究に取り組んでいる。

本年度の研究では、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善として、国語科において、以下の四つのポイントを共通理解して研究を進めている。

- ① 付けた力を明確にし、言語活動を適切に位置付けること
- ② モデル提示の吟味をすること
- ③ 目的を明確にして、子供自身が交流する必要性を感じられるようにすること
- ④ 身に付けた力を自覚できるように

うな振り返りを行うこと

これらのポイントを踏まえ、研究内容を次の二点に絞り、取り組んでいるところである。

- 一 付けた力に合った言語活動を見極め、授業に「適切に位置付ける」ことで、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を育てる
- 二 交流学习「なかめるタイム」(㉔)㉕)をよく・たか㉖)を教師が意識的に仕掛けることで、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」な児童を育てる

国語科における研究成果を他教科等とも関連付け、児童が自分の考えを伸び伸びと話すことができ学校づくりを進めていきたい。

「健やかな心と体を育む波野っ子の育成」学び合いを通して主体的な実践力を高める授業づくり

鹿嶋市立波野小学校  
校長 鬼沢 庄司

鹿嶋市では、平成二十六年より授業改善プロジェクトを立ち上げ、「授業改善七つの視点」により市内全小中学校がアクティブ・ラーニングを導入した授業実践を行っている。

- 『鹿嶋市授業改善七つの視点』
- (一)児童生徒が課題を発見しその解決のために学習計画を立てる。
  - (二)児童生徒が単元及び単位時間の学習の見直しをもつ。

(三)児童生徒がそれぞれの役割をもち、主体的協働的に課題を解決する。

(四)児童生徒が単元及び単元の終わりに何を学んだかを振り返って確認する。

(五)授業者は、パーソナルワーク、ペアワーク、グループワーク、クラスワークを適切に位置づけた授業構想を立てる。

(六)授業者は、児童生徒から様々な考えを引き出したり、考えを深めたりする指導をする。

(七)授業者は、話しすぎるのではなく、児童生徒に説明進行させる場面を多くする。

本校は平成二十六年度より三年間茨城県教育委員会学校保健・学校安全研究推進校の指定を受け「健やかな心と体を育む波野っ子の育成」をテーマに児童自ら課題意識をもち、学び合いを通して学習を深める授業づくりに取り組んでいる。この学びが学校保健委員会等のPTA活動全体を通して家庭教育に浸透し、実践力として身に付くことを願っている。

主体性の高まりと協働的な学びの深まりを目指した授業づくり

石岡市立八郷中学校  
校長 久保田 哲

本校では、平成二十六年から

二年間石岡市教育研究会の指定を受け、『主体性を高め思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方』言語活動に重点をおいた「アクティブ・ラーニング」の充実を通して」をテーマに研究に取り組んでいる。また、カリキュラムマネジメントに基づいて、授業改善を次の三つの視点から行っている。

### 目的と見通しをもち、自ら学ぶ生徒の育成

稲敷市立江戸崎中学校  
校長 百瀬 伸也

一 しぼる(欲張らずに焦点化する)  
○学校全体のテーマを基に各教科ごとに「育てたい生徒の力」を焦点化し、それに基づいて教科部会での学習指導案の共同立案をして、授業改善に取り組んでいる。

二 ゆさぶる(問題意識を喚起し、仲間を増やす)  
○課題提示の工夫を行う。(生徒の必要感を高める、驚きをとまなう、仲間と確かめたいなる課題の設定)

三 みとおす(ゴールイメージを共有する)  
○グッドモデル及び評価の指標等の提示をし、ゴールイメージを生徒間・生徒と教師・教師間で共有する。

カリキュラムを動かすのは人、動くのも人、それによって変わるのも人だからこそ、血の通ったカリキュラムマネジメントが大切であると考え、生徒の成長していく過程を全教職員で喜び合える、一

一人が輝く学校となるような授業改善に努めていきたい。

本校は、平成二十七年年度から二年間、稲敷市教育研究会の指定を受けて研究を推進している。研究の中心は、各教科におけるユニバーサルデザインを取り入れた課題解決型の授業づくりと生徒会活動の活性化である。『教育課程企画特別部会論点整理』には「教員には、指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、子供たちの思考を深め発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められる。」とあるが、私たちの研究は、本校の実態に合致したアクティブ・ラーニングの在り方を究明する試みでもある。

#### 一 目指す生徒の姿

- ① ルールを守って学習に集中している。(規範意識・耐性)
- ② 課題に対して目的と見通しをもっている。(目的・見通し)
- ③ 既習を生かして自ら課題を追究している。(課題追究)

④ 友達と協力して課題を追究している。(協力・交流)

⑤ 学習を振り返り伸びと課題を自覚している。(伸びの自覚)

⑥ 自ら課題を見付け生活を改善している。(活用・日常化)

二 授業改善の視点  
「焦点化」「スモールステップ化」「視覚化」「動作化・作業化」「共有化」「スパイラル化」「適用化」

三 生徒会活動活性化の柱  
① 学級公約実現運動  
② 各委員会学校改善キャンペーン

基礎的な知識・技能を活用し、自ら思考・判断し表現したり伝え合ったりできる児童を目指して

結城市立結城西小学校  
校長 栃木 孝行

本タイトルは、本校「学校改善プラン」に掲げた「学力向上における目指す児童像」の一つである。

目指す児童像の二つ目は「学習に主体的に取り組む、授業の終末及び家庭学習において振り返りのできる児童」であり、算数科を中心にして授業改善に取り組んでいる。実効性のある学校改善プランを作成・共有・活用し、着実に実施することが今回の視点である。「カリキュラムマネジメント」と「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善」につながることを考える。

#### 一 授業改善に向けて

○数学的な思考力・表現力を高める指導計画の構想

○思考の可視化(ノート指導)

○主体的な活動を促す指導者の質の高い言語活動(発問等)

○適用練習と振り返りの確保

二 研修体制の整備(意識改革)  
○キヤッチフレーズ「振り返りの充実、授業改善の証」

○発問中心の研究協議  
三 保護者への働きかけ(省略)  
○発問中心の研究協議

授業改善のキーワードは「振り返り」である。それは授業の終末での振り返りだけを想定していない。学習とは思考であり、思考とは振り返りであり、主体的な学習そのものである。アクティブ・ラーニングに不可欠な要素の一つは、質の高い指導者の言語活動であると考えている。不易と流行をしつかり見極めて、学力向上における目指す児童像に迫っていきたい。

### 確かな読みの力を育てる国語科学習指導の研究

八千代町立西豊田小学校  
校長 湯本 春雄

本校では、平成二十六年年度から的確に文章の情報をとらえきれない実態を踏まえて「確かな読みの力を育てる国語科学習指導の研究」のテーマのもとに、授業改善による

指導力向上と児童の学力向上に向け次のような実践を進めている。

一 主な取組  
(一)組織的研究アプローチ  
○授業研究部の実践  
研究テーマの検討や研究内容の確認・プレ授業を通して相互参観による指導案の検討

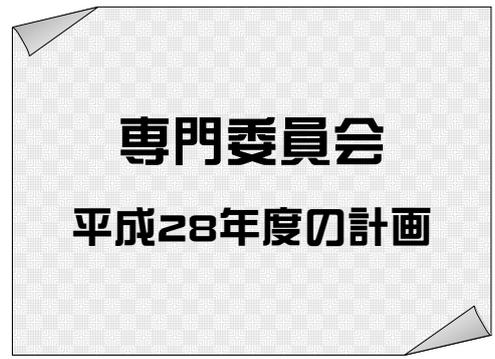
○学習環境部の実践  
アンケート調査の内容の検討・教室内外の掲示物の検討と作成(話合いの約束等)

(二)日常的研究アプローチ  
○家庭学習及び自主学習の充実  
家庭学習の手引きの活用・休日対応の課題年間計画作成  
視写・音読の継続等

○研究の日常化  
授業研究月間を設定し、要請訪問や管理職による参観指導を継続し、授業実践のPDCAサイクル機能を重視した。

二 主な成果  
(一)視写や音読の継続により、一つ一つの言葉や叙述に着目した読みや内容の把握・理解ができる児童が増えてきた。

(二)単元目標を明確にし、毎時間のまとめ・振り返りを継続してきたことで、児童自身が付けた力を分かった上での積極的な学びができるようになり、まとまった文章を書くことができるようになった。



# 専門委員会 平成28年度の計画

## 組織活性化委員会 木村 明弘

次年度の活動方針案作成を主としながら、次の二つの取組を実施し、本会の組織活性化に必要となる事項について検討する。

### 一 活動内容

○Web機能を活用したアンケートの実施

県教育研究会を組織する県内の全国公立小・中・義務教育・特別支援学校にアンケートを実施し、会員の意見を集約することで教育課題の解決や活動内容の改善充実のための検討資料とする。

### ○課題検討委員会の設置

授業改善のための課題（少数指導、アクティブ・ラーニング等）並びに県教育研究会活動

の活性化に向けた協議を行う。

### 二 活動計画

- 第一回委員会（五月三十日）
- ・課題検討委員会（六月二十九日）
- 第二回委員会（九月二十日）
- ・課題検討委員会（十二月七日）
- 第三回委員会（一月十日）
- 第四回委員会（二月十五日）

## 会報・紀要委員会 沼田 祐一郎

本委員会は、県教育研究会の研究目標及び研究の重点を踏まえ、各研究部・支部等の活動状況や教育座談会、県外視察報告等、各事業内容について、広く会員の皆様に広報することを主なねらいとしています。

会報の発行は、年三回です。それぞれに特集記事を掲載したり、「視点」や「文芸欄」には、会員の皆様から作品を投稿いただいたりして、充実した魅力ある紙面づくりに努めて参ります。

また、研究紀要は、教育論文委員会と連携し、編集いたします。会報・紀要の企画編集は、正副委員長と各研究部から推薦された二十二名の委員が行います。

今年度の発行予定日は次のとおりです。

- 第一七二号（七月十四日）
- 第一七二二号（十月六日）
- 第一七三三号（二月二十八日）
- 研究紀要五四集（三月十日）

## 学力調査委員会 皆川 澄雄

児童生徒の学力の実態を把握するとともに、指導方法の改善を図るため、「学力診断のためのテスト」を実施します。本テストは、本年度で節目の五十回目を迎えます。県教育研究会と県教育委員会との共催で実施するようになってからは、十二年目となります。

各学校においては、テストの趣旨・方法等を記載した「実施要項」に基づき、適正な実施をお願いします。

### 一 活動内容

- (一) 実施計画の検討及び作成
- (二) テスト問題作成と結果の集計
- (三) 「問題の構成とねらい」の提示と分野・領域等別に学力の実態の把握

### 二 実施予定日

- ・中三……………十一月八日（火）
- ・小三～小六…十一月十一日（水）
- ・中一・中二…十一月十一日（水）

## 教育論文委員会 櫻井 元

教職員の真摯な教育研究を助長し、本県教育の振興を図るため、今年度も教育論文を募集します。

### 一 応募規定（一部）

- A4縦長・横書き
- 文字の大きさは原則十一ポ

イントで、一枚の文字数は原則四十二字×四十行

### 二 締切り日

平成二十八年十月三十一日（月）

### 三 論文の審査

当委員・研究部部长・副部长等・県教育庁指導主事による

### 四 表彰

- ◇優秀賞 若干名
  - ◇優良賞 若干名
  - ◇佳作 一次審査通過者
  - ◇入賞者表彰式・発表会
- 二月七日に開催される茨城県教育振興大会で行う。

## Webページ運営委員会 陶 慶一

高度情報化社会の進展に伴い、「教育の情報化」を推進し、子供たち一人一人のよさや可能性を伸ばし「生きる力」を育成するために、Webページ等を活用した情報発信を推進して参ります。各研究部の積極的な活用をよろしく願います。

### 一 活動内容

- 内容検討及び更新
- ・活動概要・各研究部の定期更新
- ・専門委員会との連携協力及び各種資料の掲載

○運営及び運営方法の改善

### 二 活動計画

- 教育プラザWebページ管理委員会との連携
- 県学校長会・県教育研究会・県教頭会との合同Webページ作成研修会の開催及び活用方法の検討

## へき地・小規模校運営委員会 岩上 賀子

本委員会は、へき地・小規模・複式学級を有する小さな小中学校を対象に学校経営や学級経営、学習指導その他の諸問題についての情報交換を通して、学校教育の充実改善を目指しています。

本年度も昨年度と同様に全県の小中学校に加盟を呼びかけ、（全県の）ネットワークを生かした活動を進めていきます。

### 一 郡市委員長研修会（年二回）

○日立市立山部小学校 七月二日

### 二 小さな学校の教育研修会

○日立市立山部小学校 七月二日

### 三 全国へき地教育研究大会

（青森） 十月十三日・十四日

### 四 関東甲信越へき地教育研究大会

（東京・大島、新島、八丈島） 十一月二十四日・二十五日

### 五 全国へき地教育研究推進協議会

（東京） 十二月一日・二日

### 六 関プロ代表者会議（年二回）

# 好文亭 一文芸欄



## 俳句・短歌・川柳

水戸市立吉田小学校 立川 飛鳥  
童心に 返りて子らと 蛙追う

水戸市立見川小学校 菊池 美穂  
憂い顔 楽しい笑顔 厳し顔  
子どもに映る 自分の気持ち

水戸市立梅が丘小学校 深井 実可子  
初ボーナス  
通帳ながめて にんまりと

水戸市立飯富中学校 石塚 千晶  
セキレイや 子ども見守る 駐輪場

水戸市立双葉台中学校 布施 玲子  
綿毛吹く  
背にも眩しき ランドセル

水戸市立国田義務教育学校 根本 健一  
はしやくぐ声  
どろんこになって 初田植え  
大きく育て 苗も君らも

城里町立桂小学校 大貫 浩子  
鉄線花 二年目も咲き 父母笑顔

同 小野瀬 英輝  
トランプや  
カードがヒラリ さてどちら

同 平原 真由美  
愛子らの  
瞳にいやされ 帰宅の途に

同 蛭川 光男  
ほめ言葉  
ばかりもらって 散る牡丹

土浦市立土浦第二中学校 (東京企業訪問引率にて) 松崎 真弓  
雨の中 集まりし来る 生徒たち  
いざ東京へ あふれし笑顔

同 倉内 翼  
サミットや  
警備強化の そこかしこ

五月雨のなか 初企業訪問  
出版社 各種企業に 警視庁  
同 渡邊 広昭  
高層ビルに 輝る眼差し

同 安樂 正法  
下町の 鉛筆工場 訪れて  
日本の技術・魂を知る

同 坂場 朋美  
博物館 美術館には 長蛇の列  
上野の森に 降りしきる雨

同 鈴木 一彦  
アンケート 皆満足の 結果見て  
胸なでおろす 初の試み

守谷市立高野小学校 椎名 和良  
雑草に 名前付け付け 登下校

同 大堀 玲子  
大荷物 持つて帰るは 定時退勤

守谷市立松ヶ丘小学校 飯泉 佳奈子  
さよならの 声の高さや 夏帽子

同 戸張 深雪  
木漏れ日に 青葉さらめく 通学路

守谷市立けやき台中学校 村上 清子  
濃き淡き  
みどり織りなす 初夏の風  
今も変わらぬ ふるさとの山

同 岡本 佳与  
実習生  
まっすぐな瞳に 応えたい  
心に浮かぶ 恩師の言葉

桜川市立岩瀬小学校 酒寄 秀樹  
遠足の おやつので いっぱい  
落ちてるゴミつめ 帰路着く子供ら

同 櫻井 完介  
競技場  
児童もそれぞれ ルーティーン

同 三村 進  
紫陽花の 変わりゆく色 子と同じ

同 高尾 麻里子  
有難し  
当たり前ではない 「ありがとう」

同 田澤 朋子  
「よろしくね」  
手つなぎ歩く 学校探検

同 並木 澄佳  
クレヨンの  
カーネーションで ありがとう

同 富田 英里  
蝶の舞う 青空見つめる 優しい目

## 詩

旅立つ君へ  
北茨城市立中郷中学校 細谷 昭彦  
新たな自分探しの旅  
自分づくりの旅にでるみなさん  
抱えきれない大きな夢と  
光り輝く希望を胸に  
大きく羽ばたいてください  
そして  
誠意をもって正直に  
感謝の気持ちを忘れずに

明日を信じて  
確かな歩みで前進してください  
人生は旅であり  
また一度きりの人生だから  
悔いのない日々を送ってください  
最後に  
今日より 明日はすばらしい  
みなさんに  
そんな未来が開けますように

ダイヤモンドの原石  
古河市立三和東中学校 荒井 幸枝  
ダイヤモンドは  
磨けば磨くほど輝く宝石  
原石のままだと  
もちろん 輝くことはない  
生徒も同じ  
原石のまま  
先生自身が  
褒めることなく  
鍛えることなく  
そのままにいると  
どうなるだろう  
そんなのいやだ  
せっかく縁あつて  
出会ったかわいいい生徒たち  
時には  
認め・励まし・褒める  
鍛える中で  
心で支える  
「学校の親」としてあるべき姿  
大切にしたい姿  
ダイヤモンドの原石である生徒たち  
磨くお手伝いを  
私は続けたい

# 平成28年度 第51回 教育論文募集要項

一 趣旨 県勢の発展に寄与する教育の重要性に鑑み、教職員の真摯な教育研究を助長し、これを顕彰して、本県教育の振興を図る。

二 主催 茨城県教育研究会  
 三 後援 茨城県教育委員会  
 四 対象 茨城県教育研究会の会員を対象とし、研究は個人または、共同のいずれでもよい。

五 論文の募集  
 (1) 研究の内容  
 ア 本県教育の課題をさぐり、教育の進展に寄与するもの。

平成二十八年度 研究の目標(案)  
 子供たちに「生きる力」をより一層育むために、新学習指導要領が指す姿を踏まえ、各学校における「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた研究を推進する。併せて、課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブラーニング」)の視点からの授業改善に努める。

1 学ぶ意欲を育む。  
 学習意欲を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等確かな学力の向上を図るための研究に努める。  
 2 思いやりと感謝の心を育み、健全な体を育てる。  
 道徳教育及び体育・健康に関する指導等を充実させ、豊かな心と健康な体を育成するための研究に努める。  
 3 創意ある教育活動を展開する。  
 学校・家庭・地域社会の連携を一層深め、信頼と活力に満ちた特色ある学校づくりの研究に努める。

イ 部門は次に掲げるもの。(応募票に審査を受けた部門名を一つ書くこと。)

教育課程、学習指導、国語、社会算数・数学、理科、生活・総合的な学習の時間、音楽、図画工作・美術

術、体育・保健体育、家庭、技術、家庭、外国語活動、外国語、道徳、特別活動、学校行事、学校経営、学年経営、学級経営、生徒指導、キャリア教育、勤労教育、情操教育、福祉教育、環境教育、人権教育、郷土教育、国際理解教育、情報教育、校内研修、特別支援教育、へき地小規模校教育、学校図書館教育、学校健康教育、学校事務、その他(具体的な部門名を記す)

(2) 応募規定(厳守)  
 ア A4判縦長・横書き、文字の大きさは原則11ポイントで1枚の文字数は、原則42字×40行とし、上質紙を使用する。余白は、上下のみ25mm程度とする。綴り込み表紙は黒とし、綴りひもで上綴りする。

イ 論文は、目次・1枚・研究概要(1枚)・本文(11枚以上13枚以内)とする。(合計13枚以上15枚以内)  
 ウ 本文の冒頭に、研究主題名を記載する。  
 エ 本文内の資料は、原則10点以内とし、資料1・資料2などと表記する。複数の資料をひとつの資料とする場合は、資料の縮小は、原則として行わない。児童生徒の作品等は、文字がはつきり読めるものとする。

オ 別添資料は、特に規定しないが本文に関連の深いものとし、必要最小限とする。体裁は本文と同じA4判・縦長とする。綴り込み表紙は黒とし、綴りひもで上綴りする。

カ 本文内の数字、アルファベット、( )等は、半角文字でも可とする。  
 キ 参考文献の表示は、本文内に含めて書く。  
 ク 研究発表会で発表されている場合は、必ずその旨を研究概要に明記する。  
 ケ 応募に当たって

(ア) 個人研究様式1、共同研究様式2の応募票を表紙に貼付する。  
 (イ) 応募票1枚を余分にコピーして、原稿と共に送付する。  
 (ウ) チェック表を活用して応募規定の確認をし、原稿と共に送付する。

(3) 応募上の留意点  
 ア 文部科学省指定校、県研究推進校等としての研究内容と、ほぼ同一内容の論文でないこと。  
 イ 内地留学・大学院・十年次研修等とまとめた研究と、ほぼ同一内容の論文でないこと。  
 ウ 郡市町村以外の団体、もしくは教育弘済会等他機関に応募した論文と、ほぼ同一内容の論文でないこと。

エ 過去に賞を受けた論文(優秀賞、優良賞)の再応募はしないこと。  
 (4) 送付及び締切り日  
 ア 送付先及び問い合わせ先  
 〒311-1125  
 水戸市大場町九三三-1

「教育プラザいばらき」内  
 教育論文委員会係宛  
 〒029-2699 三〇〇(代)  
 締切り日  
 平成28年10月31日(月) 厳守  
 (当日消印有効) 事務局へ直接持参する場合は、10月31日(月) 午後5時まで。

六 論文の審査  
 (1) 提出された論文は、下記によって構成された教育論文委員会並びに審査員が審査する。  
 教育論文委員会——教育研究会代表・県教育庁義務教育課代表  
 審査員——研究部の部長及び副部長等・県教育庁指導主事  
 (2) 審査結果の発表  
 平成28年12月下旬に本人に通知する。

七 表彰  
 優れた論文に対して賞状及び副賞として次の研究奨励費を贈る。  
 ◇優秀賞 5万円 若干名  
 ◇優良賞 1万円 若干名  
 ◇佳作(一次審査を通過した者のうち、優秀・優良以外の者)  
 ◇褒状(応募者のうち上記以外の者)  
 ※共同研究の場合は代表者1名に贈る。

八 その他  
 (1) 優秀賞・優良賞を受けた論文は、研究紀要として印刷し、上記対象学校及び関係機関に配布する。  
 (2) 優秀賞・優良賞を受けた論文は、Webページ上に掲載する。

※見出し記号等について

1 □□□□□□  
 (1) □□□□□□  
 ① □□□□□□  
 ア □□□□□□

※2ページ以降の左づめは可とする  
 ※文体は常体とする  
 ※罫線は行間を原則とする  
 ※二桁以上の数字は半角を原則とする

<文章の書き出し等>

1 空□□□□  
 文章の書き出し→□□□□  
 改行→□□□□□□  
 (1)空□□□□  
 文章の書き出し→□□□□  
 改行→□□□□□□  
 ①空□□□□  
 文章の書き出し→□□□□  
 改行→□□□□□□  
 ア空□□□□  
 文章の書き出し→□□□□  
 改行→□□□□□□

<よい論文をつくるためのポイント>

- 1 主題に対し、研究の進め方は適当か。
- 2 確かな論拠に基づき、論旨は明確か。
- 3 内容に独創性があるか。
- 4 実践(研究)の積み上げがあるか。
- 5 教育上または研究上の利用価値はあるか。
- 6 論文の体裁はどうか。  
 ・論文の構成 ・誤字脱字  
 ・制限枚数 ・資料  
 ・文字数 ・参考文献など  
 ・行数

様式1 応募票(大きさ:B5の2分の1、縦18.8cm、横12.2cm)

第51回 平成28年度 教育論文応募票(個人)			
受付番号	※	部門	※
題名	フリガナ		
勤務校	フリガナ		
職・氏名	フリガナ		
年齢	教職経 験年数	性別	年

様式2 (様式1と同じ) ※印は記入しないこと。

第51回 平成28年度 教育論文応募票(共同)						
受付番号	※	部門	※	性別	年齢	教職経 験年数
題名	フリガナ					
代表者校 代勤代職	フリガナ					
代表者名 表氏名	フリガナ					
研究者 の構成	フリガナ					

Webページ上に掲載する。  
 (3) 別添資料についても、応募票と同じ様式を使う。ただし、表題を「別添資料(個人)あるいは「別添資料(共同)」と表記を変える。  
 (4) 募集要項は、Webページ「教育プラザいばらき」にも掲載している。応募票をダウンロードして使用できる。

## 編集後記

本年度のテーマである、「カリキュラムマネジメント」の研究報告し、会員の理解を深める。②各研究部、支部等の情報提供と研修・研究の動向を示す。③会員相互の研究発表の場の拡大を図る。④親しみやすく、読みやすい紙面の編集に努める。

なお、本年度の会報「紀要委員会」は、櫻村毅研究会副会長の助言のもと、委員長沼田祐一郎(水・双葉台小学校)、副委員長の川井洋子(水・稲荷第一小学校)と、各研究部から選出された二十二名の委員が担当します。本号がそれぞれの学校における取組の指針となれば幸いです。第一七一号は、正副委員長と次の担当者が編集に当たりました。

- ◎ 大口由美子(水・赤塚中)
- 関野 敏男(水・浜田小)
- 川島 麻美(水・飯富小)
- 山野邊佳苗(水・吉沢小)
- 大内 昌子(水・石川小)
- 栗田 寛子(水・飯富中)
- 藤枝 馨子(水・常澄中)

